

令和4年度

「障がい者の生涯学習」に関する 実態およびニーズ調査

【概要版】

調査の概要

1. 調査の目的

大分県に暮らす障がいがある方やその保護者、支援者等に対し、生涯学習に関する現状を把握するとともに、今後の県の取組に活かすことを目的としています。

2. 調査の対象

①特別支援学校高等部3年生、保護者、教職員	②公立社会教育関係施設
③市町村の生涯学習担当課	④障がい者就労支援施設

3. 調査の種類

A：本人（障がい当事者）向けアンケート	B：家族・職員・支援者等向けアンケート
C：社会教育施設対象アンケート	D：生涯学習担当部局用アンケート

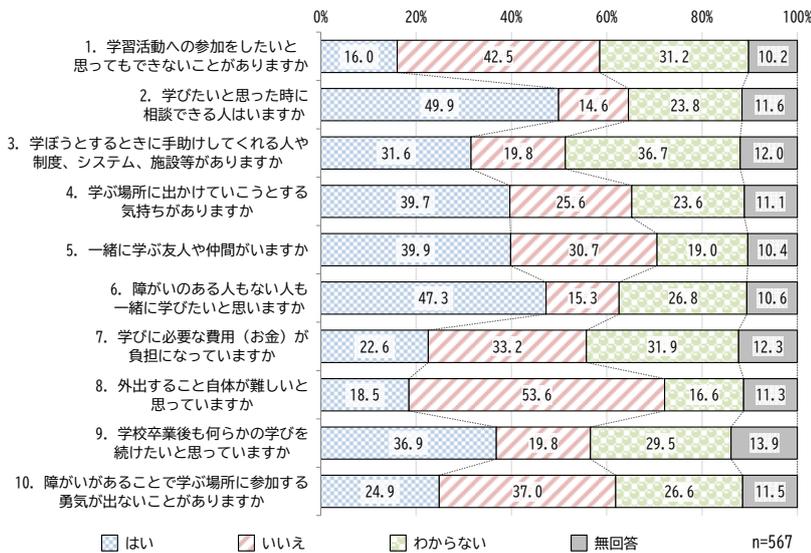
4. 回収状況

調査期間	令和4年9月8日（木）～9月28日（水）			
調査方法	郵送による調査票の配布・回収			
調査の種類	A	B	C	D
配布部数	851	467	222	18
回収数	567	338	162	13
回収率	66.6%	72.4%	73.0%	72.2%

I アンケート調査結果まとめ

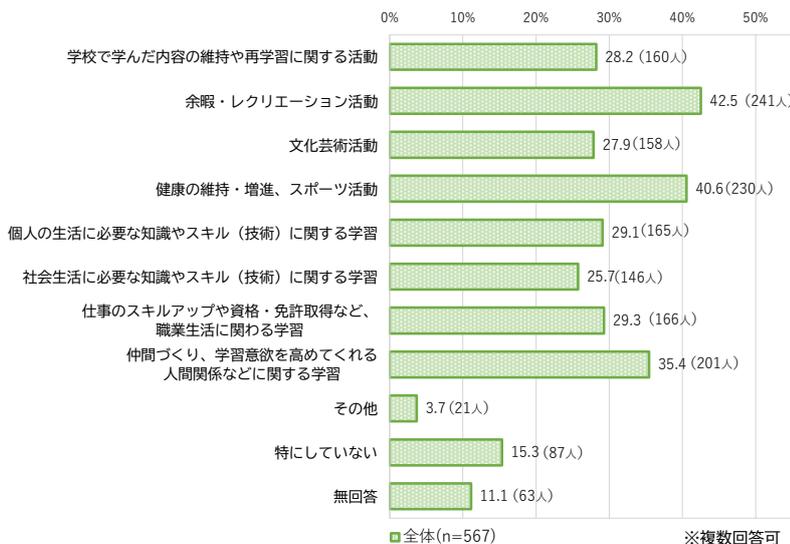
1. 本人(障がい当事者)向けアンケート結果

学びに関する状況



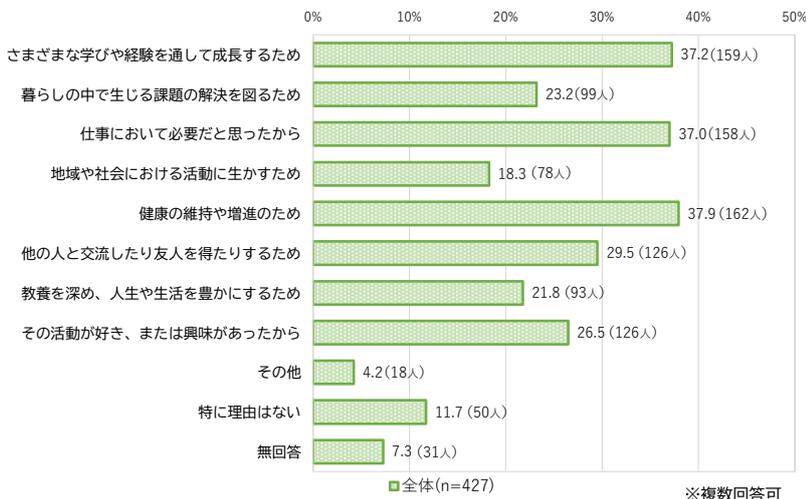
学び(学習活動)について、「はい」の割合が最も高いのは「学びたいと思った時に相談できる人はいますか」(49.9%)、「いいえ」の割合が最も高いのは「外出すること自体が難しいと思っていますか」(53.6%)、「わからない」の割合が最も高いのは「学ぼうとするときに手助けしてくれる人や制度、システム、施設等がありますか」(36.7%)となっています。

過去1年間の学びの経験



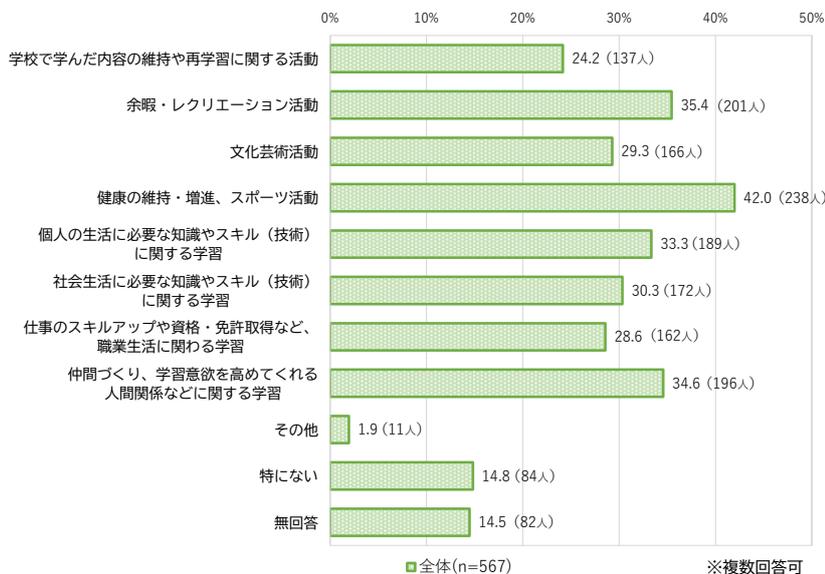
過去1年間の学び(学習活動)では、「余暇・レクリエーション活動」(42.5%)の割合が最も高く、次いで「健康の維持・増進、スポーツ活動」(40.6%)、「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」(35.4%)となっています。

学びに取り組んだ理由



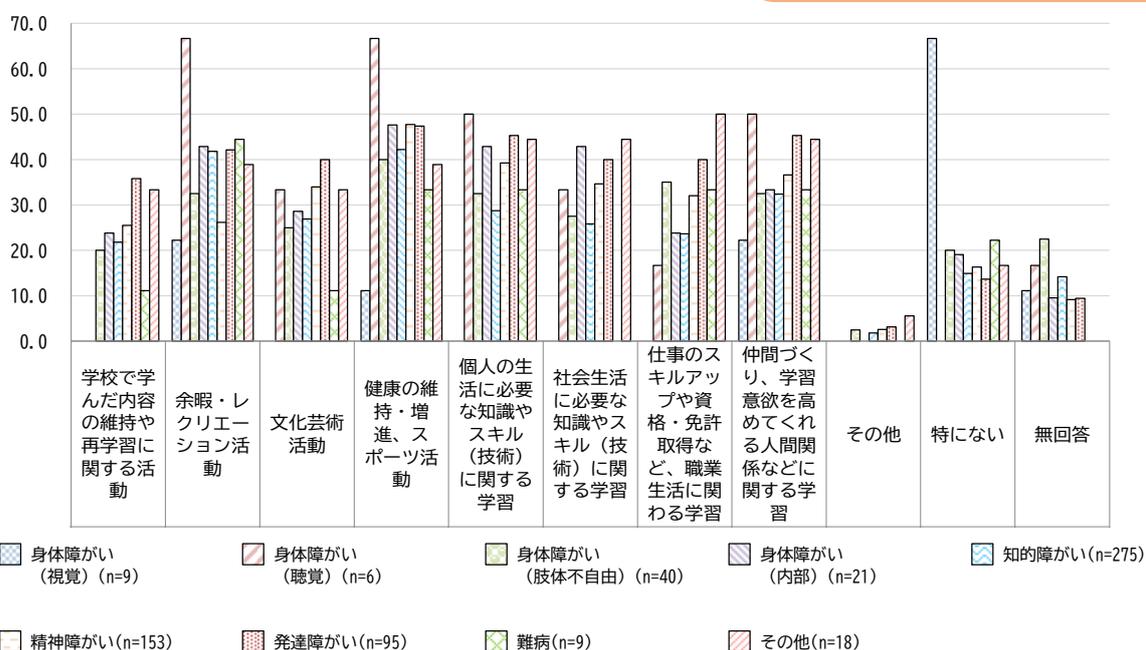
過去1年間の学び(学習活動)に取り組んだ理由では、「健康の維持や増進のため」(37.9%)の割合が最も高く、次いで「さまざまな学びや経験を通して成長するため」(37.2%)、「仕事において必要だと思ったから」(37.0%)となっています。

今後してみたいと思う学びについて

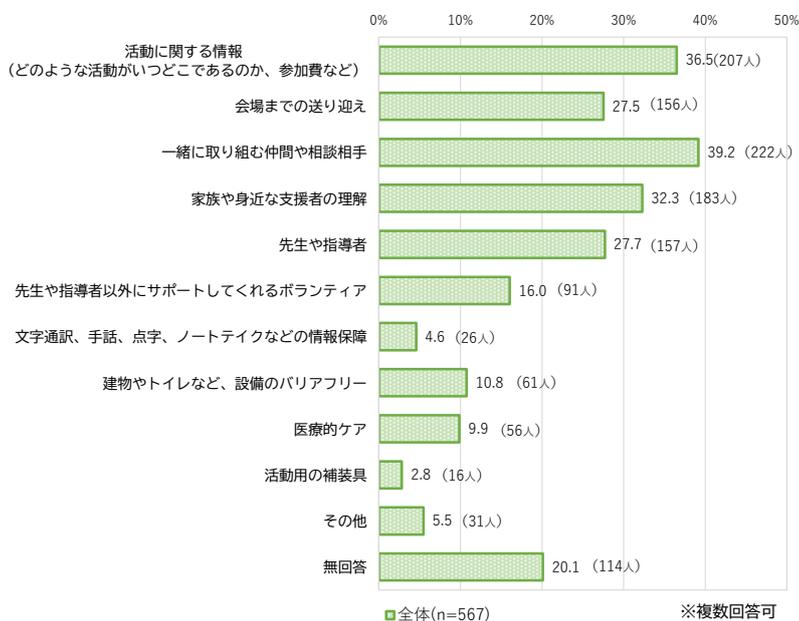


今後してみたい学びでは、「健康の維持・増進、スポーツ活動」(42.0%)の割合が最も高く、次いで「余暇・レクリエーション活動」(35.4%)、「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」(34.6%)となっています。

障がい種類別にみると、全体として「健康の維持・増進、スポーツ活動」の割合が高くなっています。



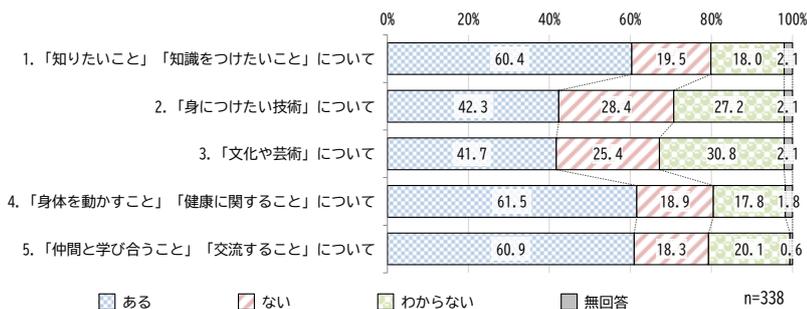
今後、学びをする上で必要なもの



今後学びをする上で必要なものでは、「一緒に取り組む仲間や相談相手」(39.2%)の割合が最も高く、次いで「活動に関する情報 (どのような活動がいつでもどこであるのか、参加費など)」(36.5%)、「家族や身近な支援者の理解」(32.3%)となっています。

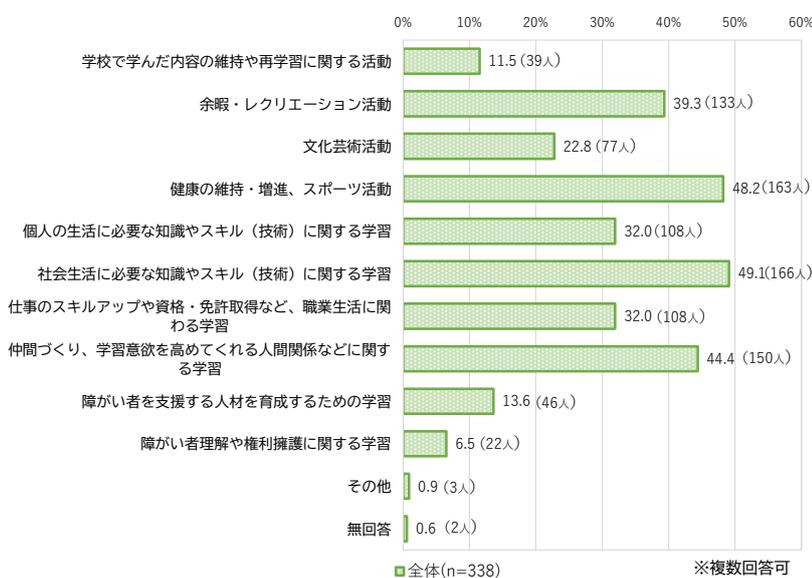
2. 家族・職員・支援者等向けアンケート結果

障がいのある方が次のようなことを学びたいと思った時、その情報は身近にあると思うかについて



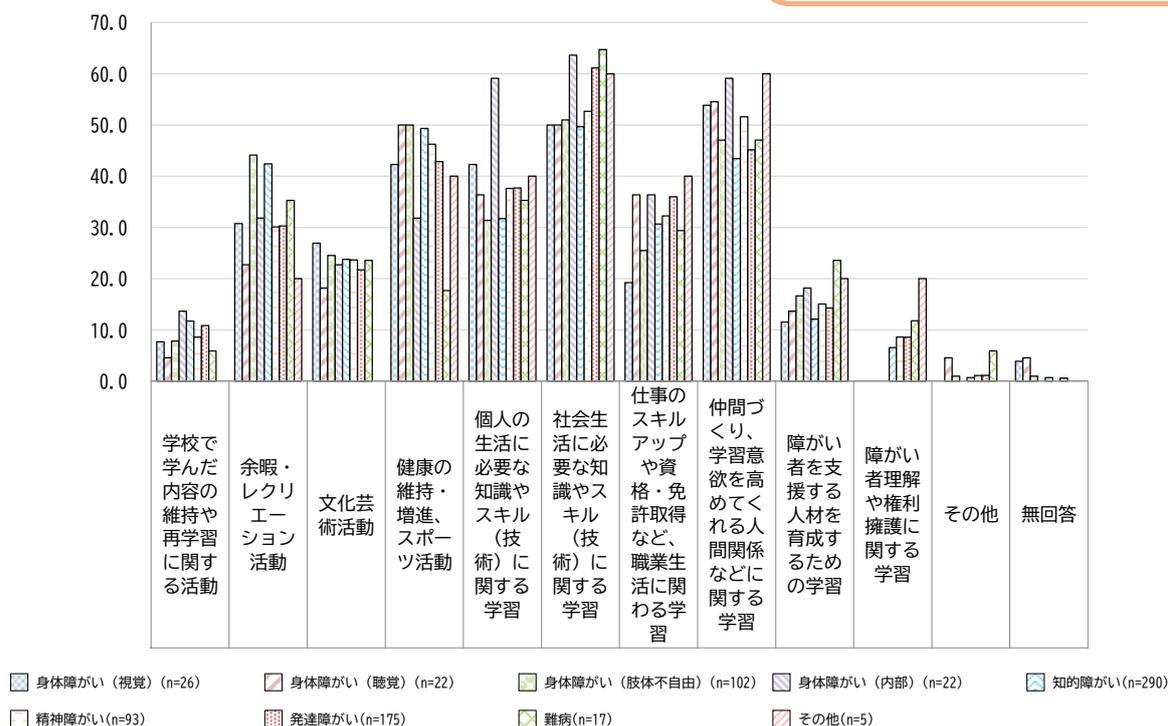
学習についての情報が身近にあるかについて、「ある」の割合が最も高いのは『「身体を動かすこと」「健康に関すること」について』(61.5%)、「ない」の割合が最も高いのは『「身につけたい技術」について』(28.4%)となっています。

障がいのある方にとって、あると良いと思う生涯学習活動について

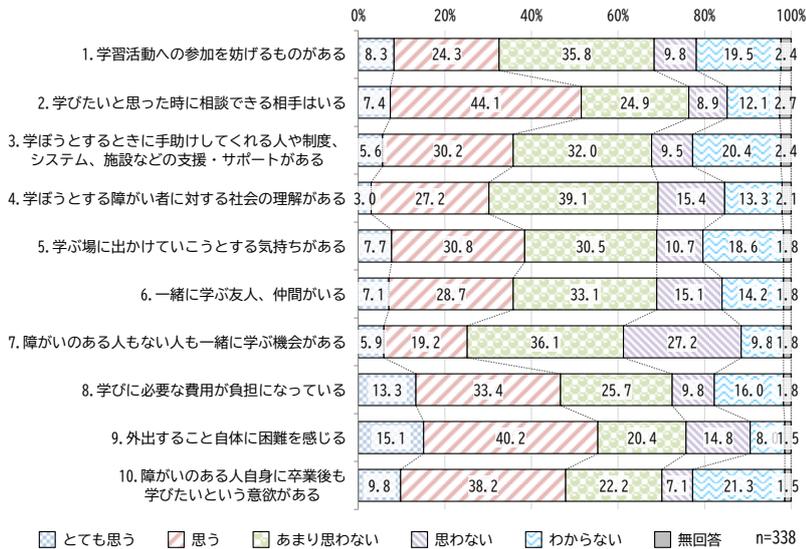


障がいのある方にとってあると良いと思う生涯学習活動では、「社会生活に必要な知識やスキル(技術)に関する学習」(49.1%)の割合が最も高く、次いで「健康の維持・増進、スポーツ活動」(48.2%)となっています。

障がい種類別では、「身体障がい(視覚)」「身体障がい(聴覚)」では「仲間づくり、学習意欲を高めてくれる人間関係などに関する学習」の割合が最も高く、それ以外では「社会生活に必要な知識やスキル(技術)に関する学習」の割合が最も高くなっています。

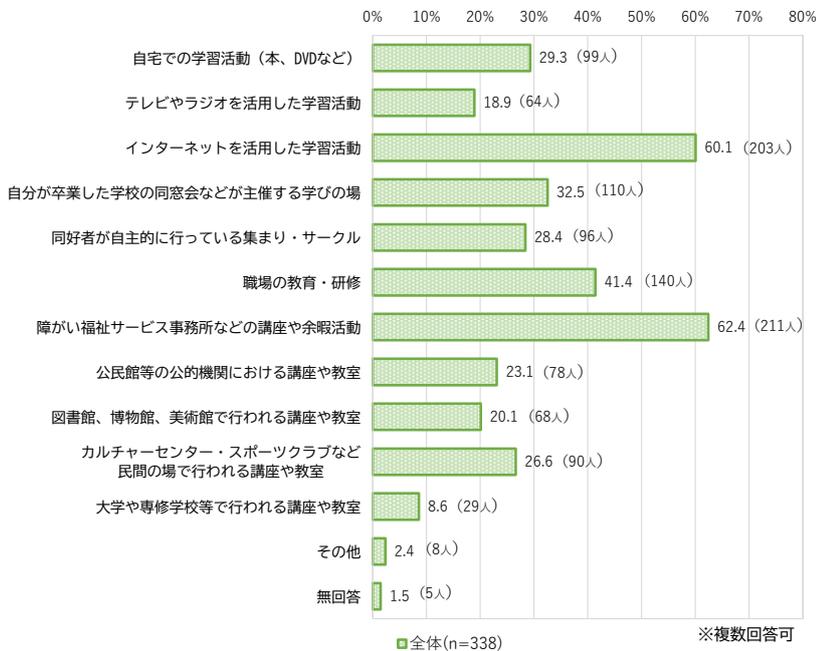


障がいのある方が生涯学習活動を続けていくことについて



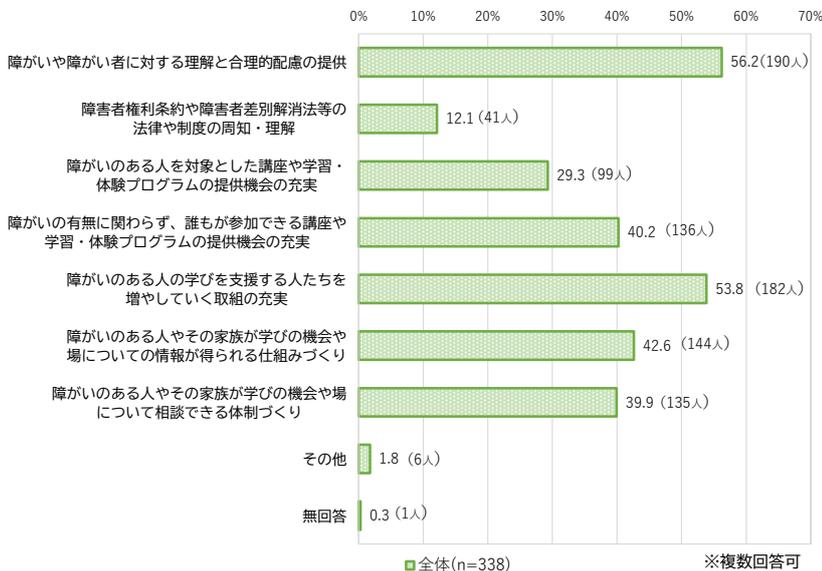
障がいのある方が生涯学習活動を続けていく上での思いでは、『思う：「とても思う」「思う」をあわせた割合』が最も高いのは「外出すること自体に困難を感じる」(55.3%)、『思わない：「あまり思わない」「思わない」をあわせた割合』が最も高いのは「障がいのある人もない人も一緒に学ぶ機会がある」(63.3%)となっています。

障がいのある方の生涯学習活動が行われる場として、今後増えていくと良いと思う場



障がいのある方の生涯学習活動の実施が増えると良い場としては、「障がい福祉サービス事務所などの講座や余暇活動」(62.4%)の割合が最も高く、次いで「インターネットを活用した学習活動」(60.1%)、「職場の教育・研修」(41.4%)となっています。

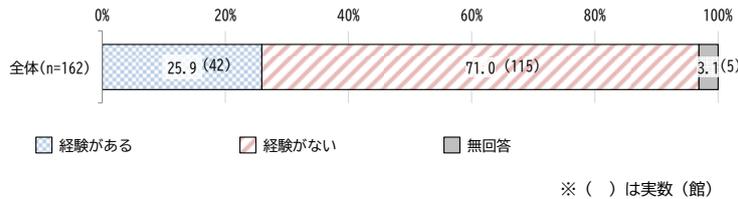
障がいのある方の生涯学習を充実させていくにあたって、県が優先的に取り組むべきだと思うこと



大分県で障がいのある方の生涯学習を充実させるために優先的に取り組むべきことでは、「障がいや障がい者に対する理解と合理的配慮の提供」(56.2%)の割合が最も高く、次いで「障がいのある人の学びを支援する人たちを増やしていく取組の充実」(53.8%)、「障がいのある人やその家族が学びの機会や場についての情報が得られる仕組みづくり」(42.6%)となっています。

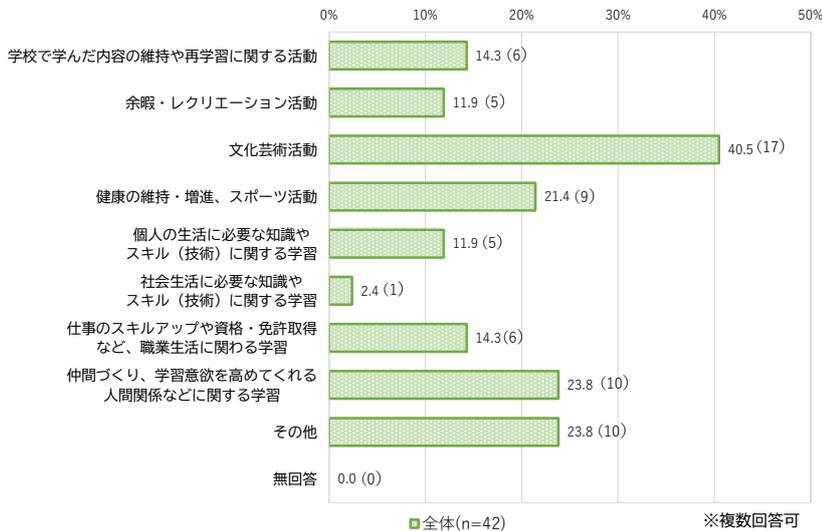
3. 社会教育施設対象アンケート結果

「障がい者の学び支援」に関わる経験について



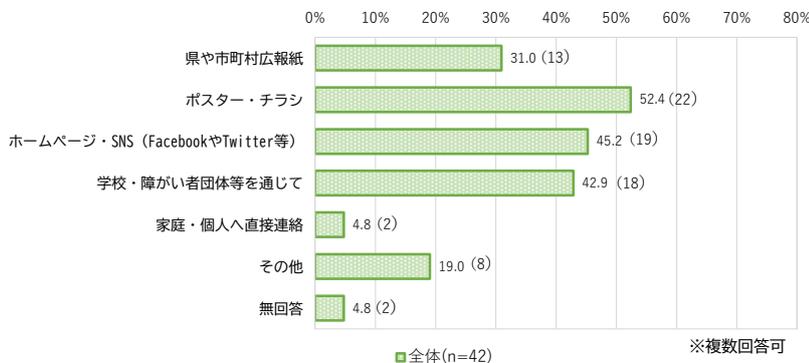
障がいのある方の学び支援に関わる経験では、「経験がある」(25.9%)、「経験がない」(71.0%)となっています。

具体的に経験した学習支援について(「障がい者の学び支援」に関わる経験がある施設のみ回答)



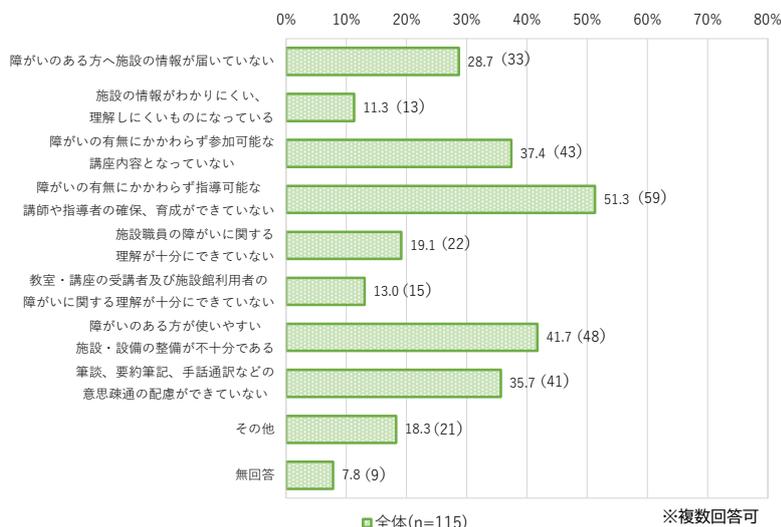
具体的に経験した学習支援では、「文化芸術活動」(40.5%)の割合が最も高く、次いで「仲間づくり、学習意欲を高める人間関係などに関する学習」「その他」(ともに23.8%)、「健康の維持・増進、スポーツ活動」(21.4%)となっています。

事業や講座の広報手段について(「障がい者の学び支援」に関わる経験がある施設のみ回答)



事業や講座の広報手段では、「ポスター・チラシ」(52.4%)の割合が最も高く、次いで「ホームページ・SNS (FacebookやTwitter等)」(45.2%)、「学校・障がい者団体等を通じて」(42.9%)となっています。

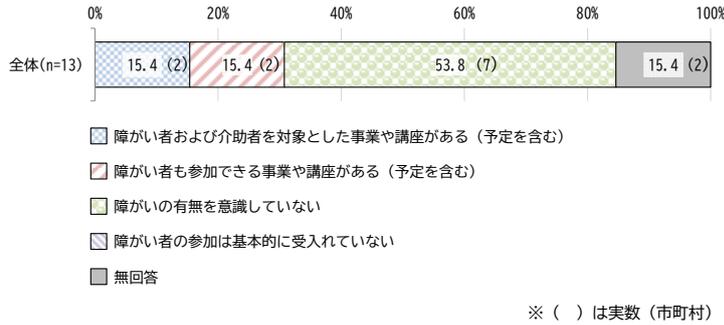
障がいのある方の学び支援に関わる経験がないことの理由について



障がいのある方の学び支援の経験がない理由では、「障がいの有無にかかわらず指導可能な講師や指導者の確保、育成ができていない」(51.3%)の割合が最も高く、次いで「障がいのある方が使いやすい施設・設備の整備が不十分である」(41.7%)、「障がいの有無にかかわらず参加可能な講座内容となっていない」(37.4%)となっています。

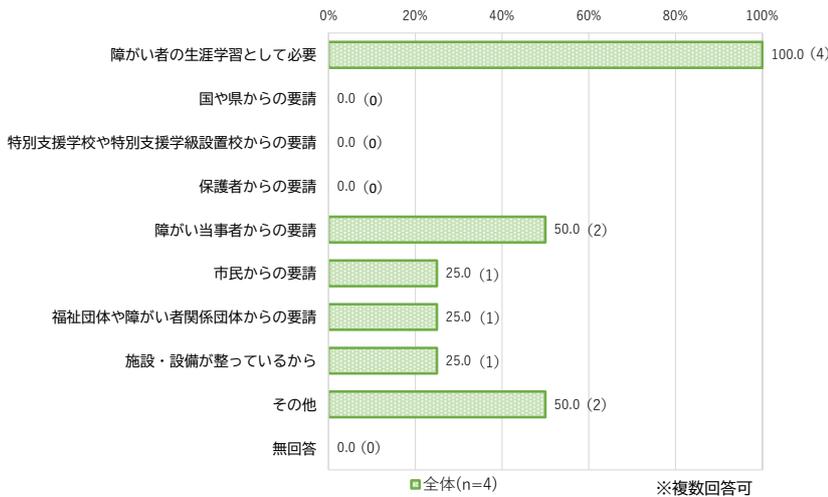
4. 生涯学習担当部局アンケート結果

課主催の事業や講座における、障がいのある方の参加について



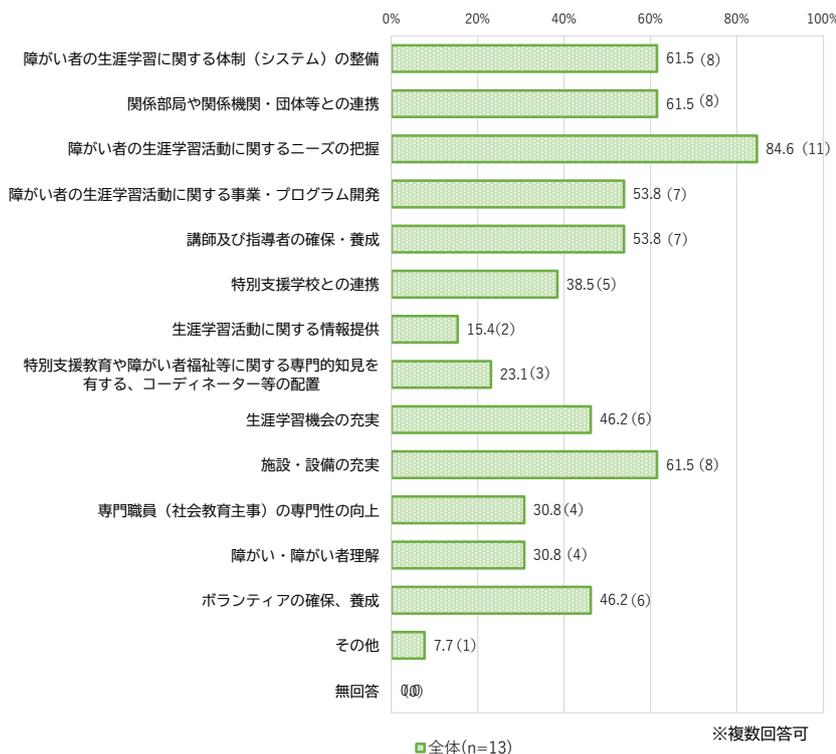
事業や講座への参加では、「障がいの有無を意識していない」(53.8%)の割合が最も高く、次いで「障がい者および介助者を対象とした事業や講座がある」「障がい者も参加できる事業や講座がある」(15.4%)となっています。

障がいのある方が参加できる事業や講座を実施する理由について



障がい者や介助者対象の事業や講座がある施設での障がいのある方が参加できる事業や講座を実施する理由では、「障がい者の生涯学習として必要」(100.0%)の割合が最も高く、次いで「障がい当事者からの要請」「その他」(ともに50.0%)、「市民からの要請」「福祉団体や障がい者関係団体からの要請」「施設・設備が整っているから」(ともに25.0%)となっています。

今後、障がい者の生涯学習を推進する上での課題について



今後、障がい者の生涯学習を推進する上での課題では、「障がい者の生涯学習活動に関するニーズの把握」(84.6%)の割合が最も高く、次いで「障がい者の生涯学習に関する体制(システム)の整備」「関係部局や関係機関・団体等との連携」「施設・設備の充実」(ともに61.5%)、「障がい者の生涯学習活動に関する事業・プログラム開発」「講師及び指導者の確保・養成」(ともに53.8%)となっています。

Ⅱ 総括

障がい当事者及び家族・職員・支援者	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がい者本人が学びたいと思った時に相談できる人はいるという割合が高いものの、学ぼうとするときに手助けしてくれる人や制度、システム、施設等がわからないという回答も多いことから、手助けできる人員の確保や制度の充実、情報等を広く告知できるシステムづくり、施設の環境整備などが必要と思われれます。 ● 障がい者本人が学ぶ場、機会に関する情報について、『「身体を動かすこと」「健康に関すること」について』は「身近にある」の割合が高くなっていますが、『「文化や芸術」について』は「身近にない」及び「必要としていない・わからない」の割合が高くなっていることから、「文化や芸術」の学びの場づくりや広報活動が必要と考えられます。 ● 生涯学習を妨げるものとして、家族・職員・支援者等からは「機会や場の提供、交流の場がない」「金銭面、交通手段、移動手段の確保（身体不自由）」「個別の障がい程度に応じた学習ではない」「特性にそれぞれ見合ったサポート体制がない」「支援者不足、障がいを理解して指導できる人がいない」という意見もあり、障がい者のニーズや特性にあった学習内容の提供や支援者のサポート体制の充実、県・国の機関や支援員の連携体制等も求められています。 ● 障がい者本人が学びの活動全般についてのその他の意見として「他人と会いたくない」「知っている人がいると嫌。話しかけられたくない」、「障がい者を変な目で見ないところなら、何でもやりたい」「特に精神は見た目で見えない人も多し」等の意見もあることから、健常者の障がいや障がい者への理解推進が求められています。
社会教育施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 障がいのある方の学び支援の経験がない理由では、「障がいの有無にかかわらず指導可能な講師や指導者の確保、育成ができていない」の割合が最も高く、次いで「障がいのある方が使いやすい施設・設備の整備が不十分である」、「障がいの有無にかかわらず参加可能な講座内容となっていない」となっているため、指導者の確保・育成、施設の整備、講座内容の充実が求められています。 ● 事業や講座の広報活動についても、「ポスター・チラシ」「ホームページ・SNS」「学校・障がい者団体等を通じて」や「公民館だより」「社会福祉協議会にチラシ配置」等を行っているものの、「広報していない」という意見もあることから、広報活動の更なる推進が必要と思われれます。
生涯学習担当部局	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後、障がい者の生涯学習を推進する上での課題では、「障がい者の生涯学習活動に関するニーズの把握」の割合が最も高く、次いで「障がい者の生涯学習に関する体制（システム）の整備」「関係部局や関係機関・団体等との連携」「施設・設備の充実」となっており、その他として「障がい者の欲求に気づきにくい部分でもあるので、ぜひ自治体の事業への理解と事業推進の姿勢が必要であると考える」という意見もみられました。 ● 障がい者の生涯学習活動のニーズを把握し、体制を整えるためにも、障がい特性の理解等を促すための研修や人材の確保等が必要と思われれます。

令和4年度「障がい者の生涯学習」に関する実態およびニーズ調査（概要版）

編集・発行 大分県 教育庁 社会教育課 令和4年 11月

〒870-8501 大分県大分市府内町 3-10-1

Tel:097-506-5526 Fax:097-506-1798

